広がるAIDS文化フォーラム

2023年度 報告書

AIDS 文化フォーラム in 陸前高田

2024 2/3(土)

AIDS･文化フォーラム in 佐賀

6/17(土)

AIDS 文化フォーラム in 横浜

8/4(金)→6(日)

AIDS 文化フォーラム in 京都

10/7(土)→8(日)

AIDS 文化フォーラム in 名古屋

12/10(日)

AIDS 文化フォーラム 広域連携会議

2024 2/23(金)

助成金：公益財団法人エイズ予防財団（令和５年度 エイズ予防財団助成事業）

目　次

AIDS文化フォーラムとは	P1
広がるAIDS文化フォーラム	P2
AIDS文化フォーラムin佐賀	P3-4
AIDS文化フォーラムin横浜	P5-6
AIDS文化フォーラムin京都	P7-8
AIDS文化フォーラムin名古屋	P9-10
AIDS文化フォーラムin陸前高田	P11-12

AIDS文化フォーラムとは

◆AIDS文化フォーラムのはじまり

1994年「第10回エイズ国際会議」がフォーラム開催の始まりでした。アジアで初めての国際エイズ会議は、大きな注目を集めましたが、行政や学会中心の国際会議は参加費が8万円で、とても市民参加できるものではありませんでした。この時、国際会議に並行して草の根の市民版エイズフォーラムをやろうと、多くのボランティア・NGO・専門家たちが、手弁当でAIDS文化フォーラムを立ち上げました。そこでは国際会議に集まるリソースパーソンを講演者にしたり、NPOのネットワークを作ったり、HIV陽性者によるパフォーマンスがあったりさまざまな試みが行われました。行政からの直接的援助は受けられませんでしたが、会場の提供など後方支援の協力は得られました。それが逆に市民ボランティアによる自立的な成長にもなり、行政と市民の協働による活動のモデルケースにもなっています。

◆“文化”の２文字

なぜAIDS“文化”フォーラムなのか。それはフォーラムを医療や福祉の問題だけではなく、HIV感染者やAIDS患者を病気と共に生きる人間としてとらえること、そしてすべての人間が、HIV/AIDSに関わりを持ちながら、日常の生活・社会的活動に関わっているという側面を大切にしたいという考え方で「文化」の２文字を使ったのです。「文化」の２文字を入れたことで、フォーラムの開催プログラムの幅は大きく広がることができました。

広がるAIDS文化フォーラム2023報告書

発　行　日　　2024年3月
発　行　者　　AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会
編　　集　　AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会
イラスト　　もたいひでのり
連　絡　先　　AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

〒231-8458　横浜市中区常盤町1-7　横浜YMCA内
Tel 045-662-3721　　E-mail abf@yokohamaymca.org
URL https://abf-yokohama.org/

この報告書は公益財団法人エイズ予防財団「令和5年度エイズ予防財団助成事業」の助成を受けて作成しています。

広がるつながるAIDS文化フォーラム

「HIVの感染経路を問わず、HIV/AIDSのみならず社会を取り巻く状況を多様に文化の視点で考えていく」ことを特徴として、各地域で地域の特徴を生かしたAIDS文化フォーラムを開催してきました。

1994年に横浜で始まったAIDS文化フォーラムの活動は、2011年度の京都初開催へつながったことを皮切りに陸前高田、佐賀、名古屋へと、全国に広がりました。各地のAIDS文化フォーラムはそれぞれが地域特性に沿った独自のフォーラムを創っています。お互いに知恵を出し合う、企画協力し合うことで互いの活動をサポートしています。各地の連携効果を高めるために年に一度、代表者が集い、フォーラムの課題や今後のチャレンジを議論する広域連携ミーティングを開催しています。

今年度は佐賀、横浜、京都、名古屋、陸前高田で開催することができ、各地のフォーラムとつながることができました。人と人との交流の大切さを改めて感じたフォーラム、各地の連携のもと、このつながりをさらに強めていきたいと思います。

AIDS文化フォーラム広域連携会議

2024年2月23日(金・祝)、5つの地域の運営委員が横浜会場およびオンラインで集いました。

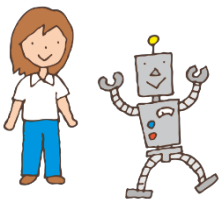
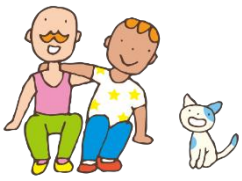
会議では、各地域から今年度のフォーラム開催報告を行い、それぞれの立場から感じている社会の課題や取り組むべきことについて話し合いました。また、今後の日程予定、開催の方向性について情報交換を行いました。

HIV/AIDSをテーマにさまざまな分野で活動している人たちが集まり、フォーラムを通して人と人との交流の大切さを改めて感じ、各地の連携のもと、このつながりをさらに強めたことを確認することができました。

各地のAIDS文化フォーラム

AIDS文化フォーラムin佐賀

テーマ	未来を見つめて
日程	2023年6月17日(土)　13：00～16：00
会場	佐賀大学医学部　臨床小講堂　3113　佐賀市鍋島５－１－１
主催	AIDS文化フォーラムin佐賀
運営	AIDS文化フォーラムin佐賀
ボランティア	27人
参加人数	※来場者数50人、ライブ配信視聴、アーカイブ配信視聴数　116回
プログラム数	口演3
プログラム内容	ABFSプログラム 13時～13時40分　演題「どう伝える、心とからだの成長のこと」 佐賀女子短期大学　こども未来学科　教授　白濱　洋子　氏 13時40分～14時20分　演題「生と性と死を考える」 浄土真宗西本願寺派　浄誓寺　副住職　古川　潤哉　氏 14時20分～15時　演題「知っていて得する女性医療の現状　」 内山産婦人科(伊万里市)　副院長　内山　倫子　氏(産婦人科医師) 15時～15時30分　グループワーク15時30分～16時00分 古川さん・白濱さん・内山さん　3人でディスカッション 16時　閉会
2023年度の特徴・成果	佐賀では、新型コロナの影響で、2020年～2022年までの3年間活動を中断していました。2023年度は、5月に新型コロナに関連した法律が変更となり、第7回ABFSは小規模ではありますが、若者を中心としたボランティア学生と養護教諭の先生方への広報活動を重点的に行い、参加者約50人の少ない人数でしたが、第7回ABFSを復活することができました。また、今回は、初の試みとして、ライブ配信も同時に行いました。ボランティア学生は、今回の活動で得た知識・情報を大切な友人に広めたいという感想が多くありました。また、現役の養護教諭の先生方も、今後の学校での職務に生かしたいという内容が多く寄せられました。
2024年度予定	2024年6月22日(土)開催

講師
内山倫子さん

AIDS 文化フォーラム in 佐賀

AIDS文化フォーラムin横浜

テーマ	未来をみつめて
日程	2023年8月4日(金) ～ 6日(日)
会場	かながわ県民センター (神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2) ※一部のプログラムはハイブリッド開催
主催	AIDS文化フォーラムin横浜組織委員会 カトリック横浜教区 社会福祉法人横浜いのちの電話 公益財団法人横浜YMCA ワイズメンズクラブ国際協会東日本区　湘南・沖縄部
共催	神奈川県
運営	AIDS文化フォーラムin横浜運営委員会
ボランティア	60人
参加人数	延べ3,067人 (会場1,673人、視聴1,394人)
プログラム数	分科会 30プログラム、展示団体11団体
プログラム内容	4日に行われた開会式・オープニングでは、後藤智己さん(社会福祉法人はばたき福祉事業団)、奥井裕斗さん(HIVと共に生きる会社員)、北山翔子さん(「神様がくれたHIV」著者)、白阪琢磨さん(エイズ予防財団理事長、独立行政法人国立病院機構大阪医療センターHIV/AIDS先端医療開発センター特別顧問)、岩室紳也さん(フォーラム運営委員)が「未来をみつめて」のテーマで、これまでの30年間、HIV/AIDSの治療方法、福祉制度の変遷、さまざまな経験について意見を交わした。 5日の「文化としての宗教～宗教とAIDS Part18～」では、水上健次さん(カトリック逗子教会主任司祭・神父)、平良愛香さん(日本基督教団川和教会牧師)、古川潤哉さん(浄土真宗本願寺派僧侶)、岩室紳也さん(フォーラム運営委員)が登壇し、さまざまな社会課題を包含するHIV/AIDSのイベントだからこそ、宗教という視点から物事を考える必要があるというメッセージが伝えられた。 6日の「感染症、射精道、コンドームの達人が語る性」では、岩田健太郎さん(神戸大学感染症内科)、今井伸さん(聖隷浜松病院リプロダクションセンター)、岩室紳也さん(ヘルスプロモーション推進センター)が登壇し、それぞれの観点から性の奥深さについて議論を行った。 このほか、HIV/AIDSの基礎知識講座として、看護学校教員の山田雅子さん(フォーラム運営委員)による「すきまミニ講座」を毎日1回開催。発表団体による包括的性教育をテーマとする講座「合言葉は『私もOK、あなたもOK』☆」、風俗産業について語る講座「5年で急上昇？女性向け風俗の現場」は満員御礼となった。 1階展示場では、参加団体による展示、運営委員会による30周年企画として、来場者で作る未来に向けたメッセージボードパネルや、横浜雙葉学園茶道部の協力によるワークショップを行った。
2023年度の特徴・成果	AIDS文化フォーラムin横浜は開催30回を迎え、4年ぶりに来場者を迎えて会場で開催することができた。「未来をみつめて」のテーマのもと、これまで学んだことと一人ひとりの気づきをベースに、これからの未来はどうなっていくのか、私たちはどんな未来をつくっていきたいのか、共に考えるフォーラムとなった。来場者、登壇者、参加団体、ボランティア、委員などが交流を深めた３日間となった。
2024年度予定	2024年8月2日(金) ～ 8月4日(日)

SNS

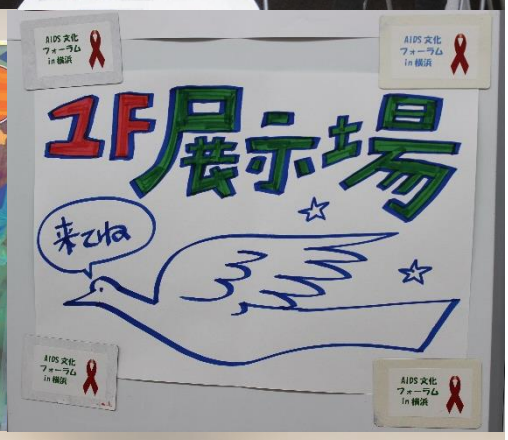
HP　X(Twitter)　YouTube　Facebook

AIDS文化フォーラム
in YOKOHAMA
HIV
AIDS

LIVING TOGETHER
AIDS文化フォーラム
in YOKOHAMA
AIDS文化フォーラム
in YOKOHAMA
未来をみつめて
8/4〜6
AIDS文化フォーラム
in YOKOHAMA

2023/08/04

壁にメッセージを
書いて好きな場所に
貼ってね！


AIDS 文化
フォーラム
in 横浜
1F展示場
来てね

AIDS文化フォーラムin京都

テーマ	エイズを知ろう　エイズで学ぼう～『つなぐ』『つながる』新たな旅立ちへ レッドリボン大作戦
日程	2023年10月7日(土)、8日(日)
会場	龍谷大学深草キャンパス和顔館
主催	AIDS文化フォーラムin京都運営委員会
共催	京都府、京都市
運営	AIDS文化フォーラムin京都運営委員会
ボランティア	24人
参加人数	※来場者数　400名、ライブ配信視聴、アーカイブ配信視聴数　500名
プログラム数	発表プログラム:21　展示プログラム：15
プログラム内容	全体会として、「知っておこう　エムポックス(サル痘)、HIV、梅毒のこと」～大事なことだから～」 司会：宇野健司(南奈良総合医療センター　感染症内科部長、関西ＨＩＶ臨床カンファレンス代表) 川畑拓也(地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所 微生物部ウイルス課 総括研究員) 森田　諒(大阪市立総合医療センター感染症内科) げいまきまき(MASH大阪、SWASH(Sex Work AndSexual Health)) を実施し、YouTubeライブ配信も行いました。 また、各教室では、共に生きる、予防、文化、薬物、セクシュアリティー、教育、保険・医療・福祉、若者についての発表や展示出展がありました。
2023年度の特徴・成果	2020年、2021年はCOVID-19の影響で、全体会のみのWeb配信でしたが、昨年より基本現地開催、全体会のみWeb配信となっています。 発表・展示演題の申込数は、昨年より増えたものの、まだ第9回までの半分程度で、来場者もまだ半分以下でした。 しかし、それぞれとても興味深い内容で、各教室10人～40人の参加数があり、密集せずに、発表者、参加者が一体となって、課題を共有できたと思います。現地開催の有用性を実感いたしました。HIVをきっかけに様々な活動をしている人々、当事者、一般市民が一堂に会す機会となっていると思いました。
2024年度予定	2024年10月初めころ、第14回AIDS文化フォーラムin京都を開催予定です。

SNS

X(Twitter)
twitter.com/bunka_forum

facebook
www.facebook.com/AidsBunkaForum

第13回
AIDS文化フォーラムin京都
レッドリボン大作戦
「エイズを知ろう　エイズで学ぼう」
テーマ曲
ひだまりの場所
シンガーソングドクター
江藤 天音 さん

全体会
第13回
AIDS文化フォーラムin京都
レッドリボン大作戦
「エイズを知ろう　エイズで学ぼう」
知っておこうエムポックス
（サル痘）、HIV、梅毒のこと
～大事なことだから～
司会　宇野 健司さん

AIDS文化フォーラムin名古屋

フォーラム名	AIDS文化フォーラムin NAGOYA
テーマ	生きづらさ、生きやすさ
日程	2023年12月10日(日)
会場	ウィルあいち　第4会議室
主催	AIDS文化フォーラムinNAGOYA組織委員会
運営	AIDS文化フォーラムinNAGOYA運営委員会
ボランティア	1人
参加人数	のべ200名※来場者数、ライブ配信視聴、アーカイブ配信視聴数
プログラム数	6
プログラム内容	10時00分～10時10分　開会挨拶　(ABF名古屋代表 籠谷倫親) AIDS文化フォーラムの主旨や今年の名古屋のテーマを選んだ理由を話しました。 10時10分～11時10分　生きづらさと向き合うとは？ (岩室紳也：ヘルスプロモーション推進センター代表) 人が生きづらさを感じる背景を解説しながら、生きづらさと向き合うということがどの様なことなのか。ということをお話いただきました。 11時20分～12時00分　SNSの限界 (SCORA) 大学生の目線からSNSで物事を伝えることの限界の話をしていただきました。 休憩 13時00分～14時20分　何色でもなく、何色にでもなれる (０_COLOR：LGBTQ活動団体) LGBTQの当事者として０_COLORの設立経緯や活動の内容をお話いただきました。 14時30分～15時50分　アディクト、世にはばかる (自見康弘：ピアソーシャルワーカー) 薬物依存の経験談や支援活動についてお話いただきました。 16時　閉会 AIDS文化フォーラムin NAGOYAの総括をしました。
2023年度の特徴・成果	2023年度はSCORA-Japanさんの意向を受けてLGBTQについて理解を深めるセッションを作ろうと思い、LGBTQの当事者団体である0_COLORさんにお声がけをしました。 私の思い込みでLGBTQの当事者は『生きづらさ』を抱えていると思っていたので、テーマを『生きづらさ、生きやすさ』としました。その中で『生きづらさ』を抱えていそうなイメージの中で『薬物依存』はピッタリだったので、自見さんにお声がけし、岩室先生の基調講演で会場に『生きづらさ』の基礎をお話いただくという流れでフォーラムの構想を考えました。 実際にフォーラムを開催してみると0_COLORの代表の國島さんから「生きづらいと思ったことはない。やりたいことを好きなようにやってきた。」というお話が聞けて、自分のアンコンシャスバイアスが人の『生きづらさ』をうみだしているのかもしれない。と感じました。 誰もがお互いを尊重し、『生きやすい』社会になる様に想いを広げていきたいと思います。
2024年度予定	2024年12月8日(日)を予定しています。

SCORA
Sexual & Reproductive Health
and Rights including HIV & AIDS

AIDS文化フォーラムin陸前高田

テーマ	「はまかだ」でつながり、みんなが元気に！
日程	令和6年2月3日(土)11:30～16:45
会場	陸前高田市民文化会館(奇跡の一本松ホール)
主催	陸前高田市、はまかだ運動推進会議
共催	(協力団体)あすなろホーム、AIDS文化フォーラム、きらりんきっず、カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク、きらり、クルミ、傾聴ボランティアこころのもり、健康運動サークルたかた☆ハッピー♪ウェーヴ!、三陸アーカイブ減災センター、高田暮舎、トナリノ、パン工房母笑、Mignon Dance Circle、りくカフェ、山猫堂、陸前高田市民吹奏楽団、陸前高田市社会福祉協議会、陸前高田市食生活改善推進員協議会、陸前高田市保健推進員、陸前高田まちづくり協働センター、陸高☆なでしこ会、りくmama+、りす整体院、わいわい
運営	陸前高田市福祉部保健課保健係、陸前高田市地域包括支援センター
ボランティア	市内外有志10名+保健推進員20名
参加人数	※来場者数：約350名、ライブ配信視聴数：約150名、事業後もアーカイブ配信中
プログラム数	オープニング：キッズダンス、吹奏楽団演奏　健康づくり表彰式　ステージ発表(講演)：活動発表１、講演１、トークセッション１、展示及び出店ブース：17　エンディング：ロコモ体操、当日の会場内の様子を編集したエンドロール上映、ステージ発表幕間におけるスライド上映："ずっとずっとふるさと陸前高田”鑑賞会
プログラム内容	◆オープニング 　キッズダンスグループMignon Dance Circleと陸前高田市民吹奏楽団のステージで会場を盛り上げた。陸前高田市福祉部長が「「はまかだ」をすることでお互いが元気になり、健康や幸せを感じられることを目指し、はまかだ運動を推進している。つどい、話すことによって、楽しい時間を過ごしていただきたい」と開会挨拶を行った。 ◆健康づくり表彰式 　市民や健康づくり関係団体等からの推薦により陸前高田市健康づくり協議会と陸前高田市が選考し、「はまかだ」を実践している４つの部門９名の方を表彰した。 ◆ステージ第1部：「介護予防自主グループ活動発表会」 　介護予防自主グループ活動発表会として、介護予防グループ２か所の活動発表を行った。活動内容や対象を限定せず、「みんなでやっていこう」という思いを大切に、メンバー自身が楽しむこと、仲間がいるから継続でき、「はまかだ」がホッと安らぐひと時であることの発表があった。 ◆ステージ第2部：「こころの健康講演会」 　「元気で長生きをして住んでいるだけで健康になれる町をつくる」として、元岩手県立高田病院長の石木幹人医師による講演を行った。陸前高田市は東日本大震災直後から「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」を掲げ、全国に先駆けて「はまってけらいん かだってけらいん運動」を推進しており、多くの種類の「通いの場」をつくり、生きがいを持って社会参加できる、住んでいるだけで健康になれるまちをぜひ皆でつくって行こうと呼びかけがあった。 ◆ステージ第３部：第９回 AIDS文化フォーラム in陸前高田「多様性を考える」 　ヘルスプロモーション推進センターオフィスいわむろの代表医師であり陸前高田市のノーマライゼーション大使の岩室紳也氏と陸前高田市の水野愛実保健師が座長を務め、陸前高田市はまかだ運動推進アドバイザーの佐々木亮平氏、陸前高田青年会議所副理事長で陸前高田LGBTQ+について考える会会長であり曹洞宗の僧侶である髙澤公元氏、ゲイであることを公言し様々な場で講演活動を行っている日本基督教団川和教会牧師の平良愛香氏、全国で宗教の話を交えながら性教育を行っている浄土真宗本願寺派状浄誓寺僧侶の古川潤哉氏とトークセッションを行った。岩室氏が僧侶や牧師である登壇者たちにHIV/AIDSやLGBTQ+における活動をしている経緯や思いを聴いた。髙澤氏から戒名についての話題が出され、戒名から考える多様性やLGBTQ＋における普及啓発の目指すもの、知るよりも慣れることの大切さ、出会うことの重要性、レインボーカラーを例に「人間は2色ではなく何色あってもよい」というメッセージをふまえたディスカッション(はまかだ)を会場一体で行うことができた。 ◆各ブース内容 　「はまかだ」をキーワードに17の団体が展示やワークショップ、販売を実施した。広がるAIDS文化フォーラム(横浜、京都、佐賀、名古屋、陸前高田)のブースのほか、今回、初めてカトリック中央協議会HIV/AIDSデスクのブースも出展され、陸前高田市内外の市民、関係者が交流を行うことができた。 ◆エンドロール 　東日本大震災前から、また直後から「はまかだ」を運動を手段に実施し続けている健康運動サークルたかたハッピーウェーヴと、陸前高田市保健推進員によるロコモ体操を行い、最後に協力団体のメッセージと当日の活動状況や実施内容の写真を入れ込んだエンドロールを流し、幕を閉じた。

2023年度の特徴・成果	2022年度に続き、市の介護予防ふりかえり交流会、こころの健康講演会、AIDS文化フォーラムが一つとなり、「はまかだ交流会」という形で開催することができた。はまかだ運動推進会議の中から多くの協力団体を募るのことができ、それぞれの意見や思いを形にして、住民及び各団体みんなで開催することができた。健康づくり表彰式から各ステージ、展示や体験コーナーすべてが『はまかだ』につながるものであった。AIDS文化フォーラム単独だけでの開催では、このように多世代、市内外の市民、関係者が参集することは難しく、「はまかだ」を合い言葉につながることができることは、AIDS文化フォーラムin陸前高田が東日本大震災後から掲げているテーマである「ともに生きる　誰もが住みやすいまちに」と合致しており、今後の継続的な開催を検討していく上でも重要な取組みである。
2024年度予定	2023年度同様、AIDS文化フォーラム単独ではなく、各講演や事業とともに「はまかだ」という共通目的を持ち、2025年2月1日(土)に陸前高田市民文化会館(奇跡の一本松ホール)で開催予定としている。

広がるAIDS文化フォーラム

2024年度の予定

- ★ AIDS 文化フォーラム in 佐賀 2024 6 / 22（土）
- ★ AIDS 文化フォーラム in 横浜 2024 8 / 2（金）- 4（日）
- ★ AIDS 文化フォーラム in 京都 2024 10 月
- ★ AIDS 文化フォーラム in 名古屋 2024 12 / 8（日）
- ★ AIDS 文化フォーラム in 陸前高田 2025 2 / 1（土）